

一二一〇番

我妹子に わぎもこ 我が恋ひ行けば あこゆ ともしくも なら 並び居 を
るかも いも 妹と背の山 せやま

一二一一番

妹があたり いも 今そ我が行く いまわ 目のみだに め 我に見 われみ
えこそ いよ 言問はずとも こと

一二一二番

足代過ぎて あてす 糸鹿の山の いとがやま 桜花 さくらばな 散らずあらな ち
む かへ 帰り来るまで

一二一三番

名草山 なぐさやま 言にしありけり こと 我が恋ふる あこ 千重の ちへ
一重も ひとへ 慰めなくに なぐさ